特集

協働のまちづくり

未来の子どもたちに
今、私たちが何を残してあげられるのか、
考えてみたことがありますか。

誇りを持って暮らし続けられるまちへ
～協働のまちづくりを考える～

「草刈り」、「溝そうじ」、「地区の祭り」、「自治会」、「消防団活動」など、社会情勢の変化により、今までと同じやり方では、暮らしの質の向上はもとより、維持をすることさえも難しくなってきています。

そのような中、今私たちにできることは何かを考えます。

第1章　今なぜ協働なのか ～わがまちの現状と課題～

少子高齢化や人口の減少など一段と厳しい社会情勢に

少子高齢化や急速に進む人口の減少など、社会情勢の変化を背景に、地域の課題は多様化し、増加しています。皆さんも、さまざまな地域活動への影響や地域力の低下などに不安を感じているのではないでしょうか。

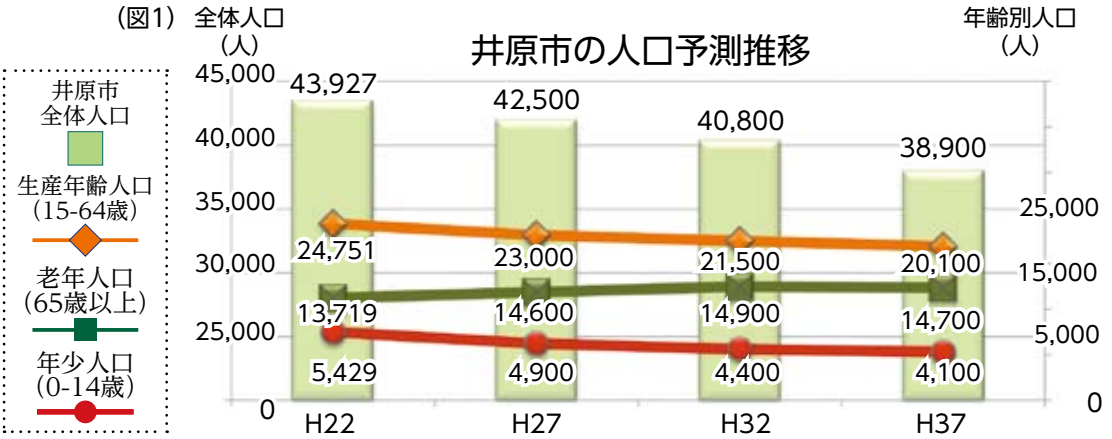
このような中で、住み続け、次の世代に住みよい地域として残していく（暮らしの質の維持や向上を図っていく）ためには、行政だけが地域課題の解決に取り組むのではなく、住民の皆さんも自らの地域のことについて考え、課題解決のために行動していくことが必要です。

①井原市の人口は、15年後には現在の1割近くが減少すると予想されています。（図1）

②少子高齢化の進行や、若者人口の減少によるコミュニティーの崩壊、農地や自然の荒廃による農村の衰退といった問題もさらに深刻化してきます。

③行政も財源の減少などにより、一段と厳しい状況になり、多様化する市民のニーズや諸問題に対応していくことが難しくなってきます。

（図1）井原市の人口予測推移



年齢不詳分を含む

資料：（公社）中国地方総合研究センター

協働ってなに？

協働とは、皆さんの暮らしの質の維持や向上を図っていくために、市民（ＮＰＯや企業を含む）と行政とがそれぞれ互いの特性を生かしながら、みんなで地域課題の解決や振興策に取り組んでいく「まちづくりの手法」のことをいいます。

地域で行う公共サービスには、市民と行政の協働で実施するのがふさわしい分野と、それぞれの特性を生かして行う方がよい分野とがあり、互いに役割を分けてまちづくりを行うことが大切です。

これは、近い将来に想定される厳しい状況を乗り越えていくために、今から問題解決のために取り組んでいかなければならないものです。

協働の領域のイメージ

第2章　協働を促進するために

～井原市パートナーシップ・プロジェクト事業～

市では、市民と行政との「協働」によるまちづくりを進めていくための仕組みづくりとして、次の6つの事業に取り組んでいます。

◀先進地への視察
（野上地区まちづくり協議会）

1 地区まちづくり協議会の組織化および運営支援

小学校区単位で設立された「地区まちづくり協議会」などの運営および調査研究を支援し、各地区における「協働のまちづくり」推進体制の強化を図っています。

また、他地区の協議会などとの情報交換や交流の場を設け、互いのつながりを深めていくことで、地域での取り組みに生かす機会をつくります。

▲リーダー養成講習会

2 地域リーダー養成事業

まちづくりに欠かせない地域リーダーを養成するために、会議進行の技術や問題解決の手法（ワークショップなど）を身につけてもらうための講座や先進地視察研修などを実施しています。

3 パートナーシップ推進員の派遣

地域と行政のパイプ役となる「パートナーシップ推進員」を各地区に派遣しています。まちづくりの会議などへの参画、情報の提供と収集、助言、市役所との連絡調整などを行いながら、互いの連携を強化し、信頼関係を高めることにより、協働による取り組みを円滑に実施できる体制を整えています。

▼パートナーシップ推進員任命式

私たちも“きょうどう”しています。

丸川敦美さん（西江原町）

子育ての喜びを共有したい

子育てサポーターになって約1年になります。井原保健センターに育児について相談に訪れた親御さんが安心して相談ができるよう、その間お子さんを預かっています。まだ経験が浅いですが、分からないことがあれば、気軽に声を掛けていただけたらと思います。

髙木邦吉さん（笹賀町）

利用者の心の健康のために

地区のサロンに集まった人たちの外出支援を行う運転ボランティアをしています。社会福祉協議会が所有する28人乗りマイクロバス「おぎゃー号」を運転し、研修視察や観光地など外出することで、少しでも利用者の心の健康が維持できたらうれしいです。

東田富子さん（美星町）

見守りを兼ねたお弁当の提供

ボランティアでお弁当を作る美星町の団体「すまいる」の代表をしています。16人の会員が月に１回、主に一人暮らしのお年寄りを対象に弁当作りを受け持ち、配達は民生委員さんで行っています。「美味しかったよ」の一言がうれしく、会員はやりがいを感じています。

▲協働のまちづくり市民推進室（芳井地区）

4 協働のまちづくり市民推進室の開催

市民と市長が直接対話する「協働のまちづくり市民推進室」を開催しています。地域のまちづくりに関する話し合いの場に市長自らが参画し、地域の皆さんの生の声を聞くことで、地域にとって必要な支援策などを探り、施策へ反映します。

▲ダニエル・カールさんを招いての「協働のまちづくり講演会」

5 啓発事業の実施

市民に対し「協働」とは何か、なぜ「協働」が必要かなど、まちづくりについて啓発する講演会を開催するなど、市民への「協働のまちづくり」に対する意識の醸成を図っています。

6 行政職員の意識改革

行政職員に対し「協働」に対する正しい知識と認識を習得するための研修などを行うことにより、一部の職員（部署）に限らず、全庁的な取り組みとして協働プロセスによるまちづくりを推進できるよう、意識改革と技術の向上を図っています。

地区まちづくり協議会は、住民自らが地域のことについて考え、互いに知恵を出し合いながらまちづくりに取り組んでいただくための話し合いと実践の場です。「住民が望む地域づくり」の推進母体として組織する各地区協議会の代表者を紹介します。

高屋まちづくり推進協議会
会長　髙村（たかむら） 誠二（せいじ）

文化の薫るまちにして
高屋を活性化したい

いずえ地区まちおこし協議会
会長　久安（ひさやす） 憲男（のりお）

お互い知恵を出し合って
助け合いのできる地域に

井原町まちづくりの会
会長　三宅（みやけ） 秀治（ひではる）

気軽に参加でき
意見の出せる雰囲気を

県の里（あがた）まちづくり推進協議会
会長　岡田（おかだ） 章文（あきふみ）

何でも話せて
顔が見える地域に

木之子地区振興協議会
会長　佐能（さのう） 直樹（なおき）

既存の各種団体を連携させて
地区民全員で活動できるように

大江まちづくり協議会
会長　寺岡（てらおか） 勝久（かつひさ）

先を見据えて、
できることからこつこつと

体制づくりに向けて

みんなの知恵と力を出し合うために

▶稲倉自治連合協議会
会長 小寺（こでら） 豊秋（とよあき）

稲倉地区

このたび自治連合会として地区のみなさんに住民アンケートをお願いしました。この調査結果が、協議会設立に向け、またこれからのまちづくりの参考資料になればと思っています。

▶協働のまちづくり市民推進室の様子

美星地区

先進的に住民主体でさまざまな取り組みを行ってきた美星地区では、現在、同地区にとって最適なかたちを検討しています。

第3章 まちがひとつに
～各地区まちづくり協議会～

青野地区まちづくり協議会
会長　三宅（みやけ） 康之（やすゆき）

常に新分野に挑戦。女性が企画・立案した新たな取り組みが始まっています

野上地区まちづくり協議会
会長　森本（もりもと） 潔（きよし）

地域の資源（人、もの、知恵）を生かして頑張ろう

荏原地区まちづくり協議会
会長　村上（むらかみ） 雅彦（まさひこ）

助け合いの心で地域がひとつの家族になれるように

芳井町まちづくり協議会
会長　池田（いけだ） 和正（かずまさ）

若い人の発想力・創造力・行動力で、まちを活性化したい

西江原地区まちづくり協議会
会長　落合（おちあい） 清三（せいぞう）

地区に埋もれている声なき声に耳を傾けられる体制を

まちづくり協議会に期待すること

自分たちが住む地区が抱える課題は何かを地域で一緒に考え、協力し合って、これらの課題解決に取り組もうと市内各地で「地区まちづくり協議会」が発足しています。

この協議会は、地域で活動する自治会や各種団体などあらゆる分野のグループが単独で対応することが難しいと考えられる幅広い課題を掘り起こし、自らの力で解決することで魅力ある地域づくりを行う〝地域コミュニティー〟の核となる組織です。地域のニーズを反映できる独創性や優先度の判断を協議会に委ねるという新たな取り組みです。

「自分たちのまちは自分たちでつくる」という思いをみんなで共有するためには、十分な話し合いが何よりも大切です。

お互いに話し合うことが大切です

市民生活部次長兼
協働推進課長
笠行（かさゆき） 眞太郎（しんたろう）

第4章
自ら考え、解決するまちに
～真の自立に向けて～

“協働”で未来を築くまちづくりを

井原市長
瀧本（たきもと） 豊文（とよふみ）

みんなの思いを計画に

本市では、これまで「協働の推進」を行政の重要施策とし、市民の皆さんと私が直接対話する「協働のまちづくり市民推進室」の開催を柱として、市民の協働意識の高揚に努めてきました。

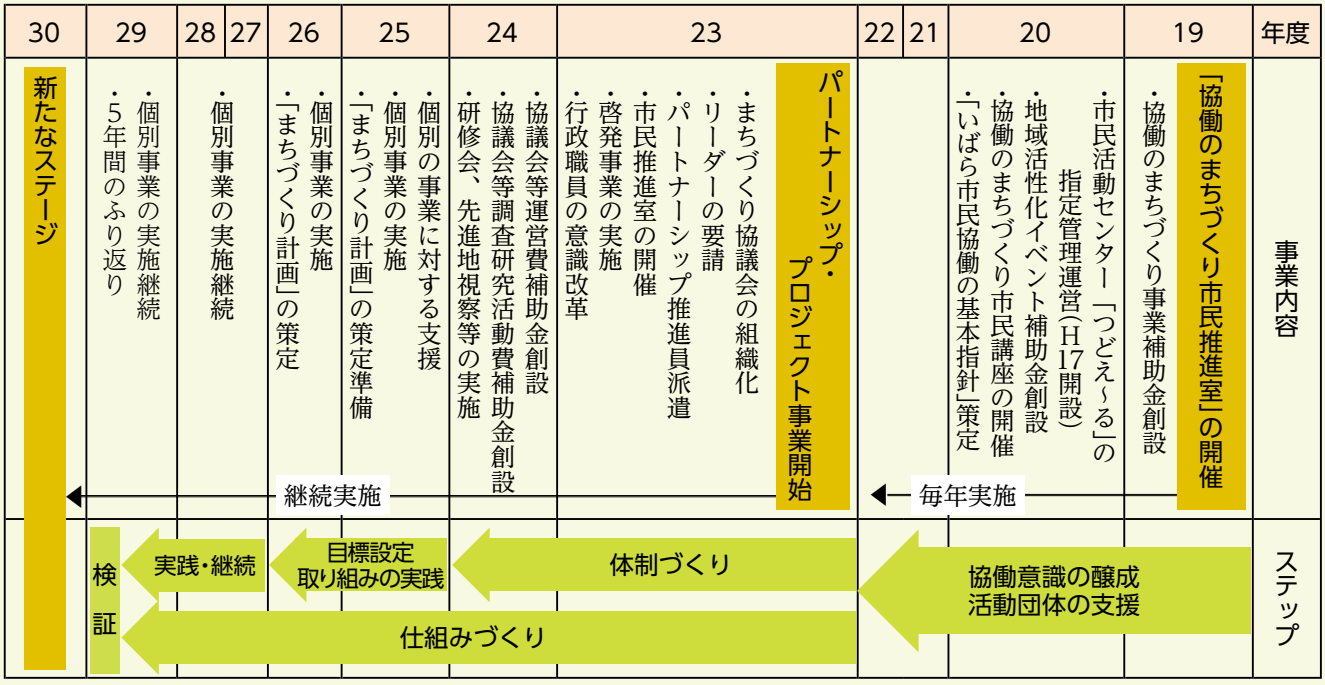
また、フォーラムや研修会などの開催、市民団体による公益事業を財政的に支援する「協働のまちづくり事業補助金」や「地域活性化イベント補助金」の創設、「市民活動センター」を拠点としての市民活動の支援など、さまざまな事業を推進してきました。これらの取り組みを通して、徐々に市民に協働の意識が芽生えてきたように思います。

その次のステップとして、昨年度より「井原市パートナーシップ・プロジェクト事業」を展開し、「協働」をより確かなものにするための仕組みづくりに取り組んでいます。

その一環としての「地区まちづくり協議会」では、地域の皆さんが一体となって、現状を見つめ直していただき、課題の解決策やまちづくりの基本的な目標を明確にしていただく。そして、地域住民が共通認識を持って、地域の将来像と目標を実現させるための具体策を定めたまちづくりの総合的な計画を作り、実践していただきたいと思います。

行政としても、このまちづくりの活動を最大限支援していき、地域と行政が適切な役割分担のもとに協力し合える「協働のまち」を実現させることが、だれもが、誇りを持っていつまでも住み続けたいまち「井原」を築くことにつながります。

協働のまちづくりの歩みとこれからの展望



～新しいコミュニティーの創造～

問題解決の場として

少子高齢化が進む現在、高齢者人口が増加する一方で、幼・少年人口および労働力人口の減少は避けられず、今後、地域力の低下が予想されます。

その事態を前に、私たちは今のうちに何をしておくべきか。まずは現実を直視し、住民でどういうまちにしたいかを話し合うことが大切です。例えば「子どもの声が聞こえるまち」「子どもたちが自信を持てるまち」など漠然としたイメージでもよいので意識してみてください。その後、なぜそう思うのか原点に立ち返ると、そこには現実があります。そこから目をそらさずに課題解決のために話し合い、まちづくりの計画を作って、実践し、実現させる。その空間が「まちづくり協議会」という場なのです。

この協議会は、小学校単位の地域が効果的です。なぜなら住民の顔と名前が分かる範囲であり、また我が子を育てる上で、教育問題としても身近に考えられ、取り組めるからです。

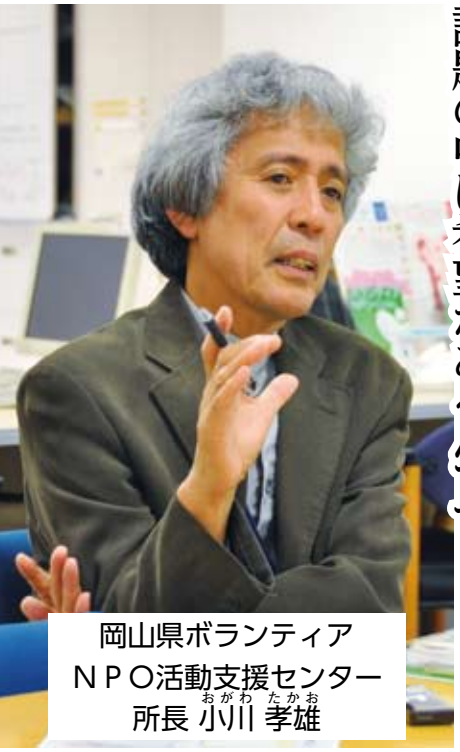
求められるもの

自分が住むまちをいかに良いまちにしていくか。市民の皆さんは「行政は何をしてくれるのか」という発想から「私たちも公共を作るんだ」という発想の転換が求められます。なかなか難しいですが、そういったところから変えていくことが大切です。最初から大きなことはできません。小さくてもいいから何かを実践し、実現させていく過程で住民の皆さんのやる気も上がってくるはずです。

また行政も、市民をパートナーとして情報を共有し、協働できる体制を準備しておかなければなりません。

最後に、地区のリーダーには、独りで全部を背負うのではなく誰かと一緒に実現させていくこと。そのためには住民の気持ちを信じ、盛り上げることがうまくいく秘けつだと思います。

課題の中に希望があるんです



岡山県ボランティアＮＰＯ活動支援センター
所長 小川（おがわ） 孝雄（たかお）

これからも
このまちで生きていく。
支え合って
より良いまちをつくっていく。
私たちのため、
そして、子どもたちのために。

特集 誇りを持って暮らし続けられるまちへ
～協働のまちづくりを考える～
（終）